

岡田(ジュニア)・高原(カデ)世界大会出場!

昨年の田中奈々絵に続き、今年も岡田千恵子が世界ジュニア代表(エペ)の座を射止めた。また17歳未満の選手によるカデ世界選手権の代表(サーブル)に、学院生高原庸介が入り、学院生高野庸介が入り、学院生の世界大会出場は初の快挙。代表を決める最終選考会は第2回JOC杯カデ・ジュニア選手権大会として1月6、7、8日の3日間、東京・駒沢体育館で開催され、岡田は女子エペの部で優勝。高原はサーブルの部で4位と健闘。優勝者の渡辺卓也(愛知・名電工)がフルレールにも優勝しているため代表を辞退。高原は繰り上げて代表枠である3人目に入ったものです。世界選手権は4月11、16日の6日間、パリ市内のジョ



ノートルダム寺院をバックに(左から)高原、川名、岡田の3人

ルジュ・カルパンチエ体育館で行われ、川名宏美監督も女子エペ・コーチとしてチームに同行しました。出場者94人による女子エペは4回4日目の女子エペは11人(7人プール)を3勝3敗と快調なペースで通過。2回戦(64人のトーナメント、15本勝負)もシエロッセール(オーストリア)に快勝、3回戦(32人のトーナメント)に駒を進めました。現在、日本では32人の中に入れば合格点と評価されているので岡田は第1目標を達成した事になります。3回戦の相手はカラン(ユーゴ)。中脊でガツシリした体格の選手で、じわじわ前に出て勝負を挑むタイプ。岡田は臆するところなく、相手の引き際を狙

ったタイミングの良いフルッシュを連発した序盤で大きく点差を開き、15-6で快勝、ベスト16入りを果たしたのです。これは日本のジュニア女子エペ史上初の快挙!さすがにここまで来ると世界の壁は厚く、4回戦の対戦相手ロンブロ(スウェーデン、5位入賞者)に手も足も出ませんでした。しかしこの種目の優勝者は韓国のキム。韓国勢はもう1人、リーが6位入賞を果たしているの、日本選手も早くからエペ一本に絞った強化策を取れば優勝争いに加わるのも夢ではないという印象を持ちました。カデのサーブルは世界の実力差が大きく、高原は1回戦で1勝したのみで敗退してしまいました。日本ではサーブル専門の高校選手は皆無という現状。小さい時からサーブルだけをやってきたというヨーロッパの選手に歯が立たないのも無理ありません。高原は試合後「大学へ行ったからサーブルを専門にやって、今度はジュニア代表を狙います」と話していました。(川名)

稲光会報

平成7年7月1日発行
編集 早稲田大学稲光会
発行者 北原 輝 宏
題字 山口 俊
印刷 藤王友社
第18巻第24号

1ページ...アトランタ五輪も
見えて来た
2・3ページ...リーグ戦詳報
4ページ...新人紹介

田中奈々絵 世界選手権&ユニバーシアード代表! アトランタ五輪も見えてきた!



世界へ挑戦する田中奈々絵選手

女子エペ、初の一部昇格——リーグ戦、入替戦の詳細は2、3面に特集してあります。今回は世界に羽ばたく田中奈々絵(教育学部3年)が一面を飾ります。田中は5月に開かれた世界選手権(7月・オランダ)、ユニバーシアード(8-9月・福岡市)の国内最終選考会で共に女子エペの部で優勝。2大会への出場権を獲得したのです。さらにナショナルチームの一員としてアジア・オセアニア地域五輪予選(8月・ソウル)にも出場するため、早々とアトランタ代表に決まる可能性も出て来ました。田中は今や「ニッポンの奈々絵」なのです。

選考会が行われたのは5月4日(世界選手権)と同日(ユニバーシアード)。共に女子エペ種目決勝戦に出場した田中は、12人総当たりという過酷なプール戦にもかかわらず、終始安定した戦いぶりでした。世界選手権の方は10勝1敗。2、3位が7勝4敗同士だから、これはもう断トツの1位。ユニバーシアードの方は同じく12人プールで11戦全勝と文句なし。協会関係者に改めて「奈々絵強し」を印象づけたものです。これまで世界選手権は2年連続の出場。

田中は昨年7月、試合中に相手選手とぶつかり転倒、左ヒザじん帯はく離というアクシデントに見舞われ、後半戦を棒に振っています。回復が長引けば春のリーグ戦出場も無理と思われる重傷でしたが、2月下旬から練習を再開。決して万全の体調とはいえないものの、リーグ戦では2種目優勝の索引車となりました。そんな最終選考会出場だったため「代表になれば上出来」(川名監督)と見られていたのです。それが2日連続の断トツ優勝という見事なカムバックぶり。周囲がアツと驚いたのも無理はありません。

今の田中にとっては世界大会に出場する事は当然。むしろ世界の強豪を相手にどこまで勝ち進むかが注目のマツ。その辺りを川名監督は「世界選手権は32人のトーナメント進出。ユニバーシアードはベスト16入り」を期待しています。8月のアジア・オセアニア地域五輪予選は、出場人数制限のため今回から実施されるもので、同予選を突破すれば自動的に来年のアトランタ五輪代表選手となります。それも含めて今年の夏は田中にとって正念場。どんな結果を出してくれるのか、健闘に注目しましょう。

強力な新人トリオが入部
平成7年度の人間科学部特別選抜入試で鹿児島南高の新村竜二(総体サーブル2位)が合格。また教育学部の自己推薦で米沢興譲館高の岡村悦男(総体サーブル優勝)と東亜学園高の堀井清毅(総体エペ7位、フルール団体3位)の2人が合格。高校選手として一級の3人が揃って入学しました。(4面新人紹介欄参照)

象づけたものです。これまで世界選手権は2年連続の出場。田中は昨年7月、試合中に相手選手とぶつかり転倒、左ヒザじん帯はく離というアクシデントに見舞われ、後半戦を棒に振っています。回復が長引けば春のリーグ戦出場も無理と思われる重傷でしたが、2月下旬から練習を再開。決して万全の体調とはいえないものの、リーグ戦では2種目優勝の索引車となりました。そんな最終選考会出場だったため「代表になれば上出来」(川名監督)と見られていたのです。それが2日連続の断トツ優勝という見事なカムバックぶり。周囲がアツと驚いたのも無理はありません。

今の田中にとっては世界大会に出場する事は当然。むしろ世界の強豪を相手にどこまで勝ち進むかが注目のマツ。その辺りを川名監督は「世界選手権は32人のトーナメント進出。ユニバーシアードはベスト16入り」を期待しています。8月のアジア・オセアニア地域五輪予選は、出場人数制限のため今回から実施されるもので、同予選を突破すれば自動的に来年のアトランタ五輪代表選手となります。それも含めて今年の夏は田中にとって正念場。どんな結果を出してくれるのか、健闘に注目しましょう。

強力な新人トリオが入部
平成7年度の人間科学部特別選抜入試で鹿児島南高の新村竜二(総体サーブル2位)が合格。また教育学部の自己推薦で米沢興譲館高の岡村悦男(総体サーブル優勝)と東亜学園高の堀井清毅(総体エペ7位、フルール団体3位)の2人が合格。高校選手として一級の3人が揃って入学しました。(4面新人紹介欄参照)

岡田千恵子
世界ジュニアで5位
田中奈々絵の後輩岡田千恵子(教育学部2年)が4月パリで開催されたジュニア世界選手権女子エペに出場、15位に入る活躍を見せました。同時に開かれたカデ世界選抜サーブルに高原庸介(早稲田高専学院3年)が出場。こちらは学院生として初の世界大会出場という快挙を達成しました。(4面関連記事参照)

新人紹介

新人大当たりの年で、推薦入学者が4人も揃いました。人間科学部の特別選抜入試で鹿児島南高・新村竜二(総体サーブル2位)、教育学部の自己推薦入試で米沢興譲館高・岡村悦男(総体サーブル優勝)と東亜学園高・堀井清毅(総体エペ7位、フルール団体3位)の3人が合格。また指定校推薦で香川県立高松高のインテリ八選手出水宏和が入学。推薦入学者は計4人。厚木高出身者が2名入部した。今年の新人は6人。またまた全員が経験者です。2年後、3年後の1部復帰の中心選手となってくれるでしょう。①出身高校②学部③競技④一口コメント

山田順子 ①厚木高②人間科学③神奈川県新人戦団体優勝、神奈川県関東大会予戦団体優勝④早く上達するよう懸命に頑張ります。	松田義弘 ①福岡県立筑紫高②人間科学③なし④断然少数派の未経験者ですがエペを一生懸命やっています。	古谷浩崇 ①厚木高②法③関東大会団体ベスト8④フェンシングをバスケ並みに楽しみたい。	福島茂紀 ①厚木高②理工③神奈川県・インターハイ予選エペ3位④楽しくフェンシングに励みたい。
出水宏和 ①香川県立高松高②第一文学③インターハイフルール団体ベスト16、四国選手権5位④何事にもプラス思考頑張ります。	堀井清毅 ①東亜学園高②教育③インターハイエペ7位、フルール団体3位④新人王、世界ジュニア代表、1部復帰と夢が一杯です。	新村竜二 ①鹿児島南高②人間科学③インターハイサーブル準優勝④まずレギュラーの座を確保、そして1部復帰です。	岡村悦男 ①山形県立米沢興譲館高②教育③インターハイサーブル優勝④自分達の手で1部復帰を果たします。

●50周年にご協力を! 早稲田大学フencing部は平成8年で創部50周年を迎えます。来年度の稲光会の日(10月10日)はその祝賀パーティーを行います。会場は新規オープンしたリカローヤルホテル早稲田を予定しております。式典の演出、記念品等については、幹事を中心とする準備委員会が企画を練っております。全国の会員の皆様にご出席いただけるよう入念な準備をしているわけですが、その前に年会費の納入をぜひお願い致します。また特別寄付依頼の文書を近々送付しますので、よろしく御協力下さい。会費の振込先は次の通りです。①第一勧銀四谷支店 早稲田大学稲光会(普通預金)1007895 (吉田友久)

1995 リーグ戦 詳報

念願の1部入りを果たし、高田先輩を囲んでニコニコ。左から山田、岡田、戸ヶ崎、田中



女子、念願の1部昇格

3年ぶりの男子入替戦は残念ながら完敗

やったぞ、早稲田女子ノ初の1部昇格が実現。平成7年度関東学生リーグ戦は4月22日〜5月10日まで東京・駒沢体育館等で行われ、女子はフルーレ、エペの2種制覇。男子はフルーレに優勝し、5月14日の入替戦で女子エペのみ目大に快勝して待望の1部入りを果たしました。

「女子」入替戦のピストには魔物が潜んでいる。いつの間にかこんな事が言われているが、1部初挑戦の女子フルーレでわれらが女子選手3人もいきなりパクリとやられてしまいました。圧倒的有利と見られた中大戦ですが、勝星が続きません。岡田が負ける。田中が負ける……。平常心を失い、相手に押されると苦しまぎれのコントロールを出して失点を重ねる。巧者戸ヶ崎にもいつもの切れの良さが見られずズルズルと連敗。やっと4勝4敗に追いついた最終戦。戸ヶ崎の相手斉田は今春、東亜学園から進学したばかりの新人選手。お互いにシムルタネ(同時攻撃)を繰り返しながらの単調な1本勝負で取ったり取られたりの一喜一憂。しかしこの試合展開は技のない中大斉田にとって有利。果たして4-4のド壇場でもたも



(エペ入替戦) 貴重な? 勝目を挙げた戸ヶ崎 (左)



駒沢体育館でのリーグ戦風景

同時攻撃。斉田のランブダだけがすっかり点灯したのでした。思わぬ拙戦で涙を流した女子陣ですが、エペでは頑張りました。緒戦で岡田が4-4からタイムアップ寸前で勝つというヒヤヒヤ試合を演じたのですが、続く戸ヶ崎がフルーレとは別人のような切れの良いアタックを次々に決めてあっさり連勝。これが大きかった。試合の流れをしっかりと早稲田側へ引き込んだのです。だから3戦目にエース田中がタイムアップで星を落とす。ベンチは動揺しませんが、岡田、田中と白星をつなげ、戸ヶ崎が負けた後に田中がキッチリとケリをつけたのです。同じメンバーで来年は待望の1部戦。優勝も夢ではないと期待感はいきまします。

「男子」こちらは完敗です。「今年の拓大は例年になく弱い」というのが定評でした。だから緒戦に羽田が5-3で快勝した時は「ひ

よっとしたら!」という期待を抱いたのですが、やはり1部と2部の試合に対する迫力の差、執念の差が歴然。ズルズルと連敗し、終つてみれば2勝5敗。3年ぶりに入替戦を経験したというにとどまった一戦でした。「監督・川名宏美」

「男子」優秀な高校生を推薦入学させてチーム力の強化を図っている早・明・東農。それに附属高出身者で固めている立教。現在の2部リーグはこの4チームで3種目の優勝争いをしていきます。今年、フルーレは早大が制しました。対立大戦は1年生岡村の3勝で辛うじて勝つという内容でしたが、他の試合は4年生羽田がキッチリ3勝してチームを引っ張る予想通りの展開。2年連続優勝の明治戦も接戦の末モノにして5戦全勝と、3年ぶりの制覇を果たしました。

サーブルは立教が強かったですね。5年前、強豪埼玉栄高を破ってインターハ

イに出場、ベスト8まで進んだ時のメンバーがそろって4年生になり、今年は立教の3種目優勝?とまで言われたチームです。フルーレで早稲田に敗れた屈辱がバネになり、5戦全勝。わが方は緒戦の東農戦で2勝7敗と大敗したショックが尾を引き、ズルズルと3連敗。明治に8勝1敗と圧勝したものの時すでに遅く、3位に終わりました。

エペは秘蔵かに優勝の望みを託していた種目でしたが、東農にしてやられました。早稲田は昨年に続き田中、片島、そして松原、堀井とエペ専門選手で臨みましました。種目によってガラリとメンバーを替えて戦えるのが層の厚くなった早稲田の強味。しかし選手たちの



(同)負傷後、二一カバーを着けながら活躍した田中 (右)



(同)元気者岡田 (左) がチームを引っ張った

おとなしさが競り合いに弱いという一面をのぞかせ、東農に2勝7敗と大敗。これでフツツンして最後の明大戦も4勝4敗から競り負けてしまいました。下級生の成長が望まれる来年こそ勝負の年となるでしょう。

「女子」田中、岡田と2枚看板を擁する早稲田は連戦連勝。入替戦に勝つための練習試合の観念あつたフルーレが、本番では萎縮してしまつてですね。来年こそ1部昇格を実現してみせますよ。逆に中大に思われ1敗を喫し、エペは完全優勝が出来ませんでした。なに入替戦では完勝。勝負というのにはなかなか計算通りに事が運ばないものです。(監督・川名宏美)

リーグ戦も3人制導入

今年度のリーグ戦から、男女とも全種目3人制となりました。これはFIE(国際フェンシング連盟)の規定改正で、オリンピック、世界選手権等の公式戦の団体は全て3人制とする事になったため、学連もそれに倣つたものです。3人制は全部で9試合、5勝で勝ちが決まるので勝負が非常に早いのが特徴です。チーム力互格同士の対戦では序盤の取りこぼしが確実に敗戦につながるの気が抜けません。早慶定期戦も3人制で行われるのでぜひご覧下さい。

'95年入替戦&リーグ戦成績

△入替戦成績 早大 5-2 日大 岡田 5-1 大島 戸ヶ崎 5-2 亀和田 田中 5-5 中島 岡田 5-4 亀和田 田中 5-1 大島 戸ヶ崎 2-5 中島 田中 5-2 亀和田		▽女子フルーレ 早大 4-5 中大 岡田 5-1 斉田 戸ヶ崎 2-5 赤羽 田中 5-3 橋本 岡田 3-5 赤羽 田中 5-3 赤羽 戸ヶ崎 3-5 橋本 田中 1-4 赤羽 岡田 5-0 橋本 戸ヶ崎 4-5 斉田					
▽男子フルーレ 早大 2-5 拓大 羽田 5-3 菊池 本間 2-5 横山 岡田 1-5 北山 村田 1-5 横山 村田 2-5 菊池 本間 5-0 北山 岡田 4-5 横山		△男子リーグ戦成績 早大 6-3 学習大 早大 5-4 立大 早大 5-4 東農大		▽女子エペ 早大 7-2 青学大 早大 6-3 慶大 早大 8-1 立大 早大 2-7 東農大 早大 4-5 明大 早大 4-1 東農大 早大 3-3 早大 早大 2-2 慶大 早大 1-1 慶大		▽男子エペ 早大 7-2 青学大 早大 6-3 慶大 早大 8-1 立大 早大 2-7 東農大 早大 4-5 明大 早大 4-1 東農大 早大 3-3 早大 早大 2-2 慶大 早大 1-1 慶大	
△個人成績 ①立大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗 ②早大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗 ③早大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗 ④早大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗 ⑤早大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗 ⑥早大 2勝3敗5慶大1勝4敗⑥青学大5敗		△個人成績 ①早大 4勝2敗2慶大2勝2敗④法大1勝3敗⑤国学大4敗 ②早大 4勝2敗2慶大2勝2敗④法大1勝3敗⑤国学大4敗 ③早大 4勝2敗2慶大2勝2敗④法大1勝3敗⑤国学大4敗 ④早大 4勝2敗2慶大2勝2敗④法大1勝3敗⑤国学大4敗 ⑤早大 4勝2敗2慶大2勝2敗④法大1勝3敗⑤国学大4敗		▽フルーレ 早大 8-1 慶大 早大 7-2 法大 早大 7-2 明大 早大 9-0 国学大 早大 1-4 慶大 早大 2-2 慶大 早大 3-3 慶大 早大 1-1 慶大 早大 1-1 慶大		△個人成績 ①早大 3勝1敗2中大3勝1敗③法大2勝2敗④明大1勝3敗⑤国学大1勝3敗 ②早大 3勝1敗2中大3勝1敗③法大2勝2敗④明大1勝3敗⑤国学大1勝3敗 ③早大 3勝1敗2中大3勝1敗③法大2勝2敗④明大1勝3敗⑤国学大1勝3敗 ④早大 3勝1敗2中大3勝1敗③法大2勝2敗④明大1勝3敗⑤国学大1勝3敗 ⑤早大 3勝1敗2中大3勝1敗③法大2勝2敗④明大1勝3敗⑤国学大1勝3敗	